

## 6.5 教育の質の向上

### 進捗状況報告

学生による授業評価の活用状況については、2007年度においても「授業に関する調査」の実施と「授業改善報告書」の作成提出を行った。FD活動の面ではFD運営委員会の企画・運営によって、2008年2月14日に「演習に関する情報交換と改善に向けて」というテーマを掲げての研修会を開催した。従来ともすれば教員個々の裁量・運営にまかされていた3・4年生対象の「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」の授業の内容や方法も、FD活動で検討に附すべき対象として取り込み、個々の演習の独自性は尊重しながらも、教員間における情報の共有と相互啓発とを図る必要を確認することを目標として開催された研修会だったが、文学部の教員ほぼ全員による事前報告書や3人のレポーターからの話題提供を元にして活発な意見交換がなされた。そこでは教育効果をあげていくためのさまざまなアイデアや工夫が紹介されもすれば、演習理念の継承と改革をめぐって文学部の教員が日ごろ考えている知見も発表された。カリキュラムの多様化・重層化による有機的教育の促進を担う一制度として文学部で導入している「複数演習履修」を希望した学生は2008年春学期では15名を数え、漸次増加の傾向を示しつつあるが、この動きを評価するための基準や方針を明確にしていくための議論も、今回のFD研修会を一つの契機として巻き起こっていくことが予想される。一方、それと関連して「文学部内副専攻制度」の履修状況にも目を向けると、2006年度の申込者129名のうち、その75%にあたる99名が2008年3月にこの制度を修了した。2007年3月の修了者の比率が申込者の60%であったのに比べるとこの制度に対する学生のモチベーションの高まりが確かめられる。

### 学内第三者評価

演習についての学部全体での活発なFDの取り組みが認められる。また「複数演習履修」や「学部内副専攻制度」への学生の参加が次第に増えていることは、学部の教育方針が学生に浸透しているものと考えられるが、その成果や問題点については今後も活発なFD活動の中で検証されていくことを期待したい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
FD活動の活発化、「複数演習履修」や「文学部内副専攻制度」に見られる新しい試みの定着など、改善が進められている。

(以下、全学共通)

2006年度に受けた認証評価の結果において、「FD活動の一環である各学部の授業評価アンケートは、2005(平成17)年度からは全学一斉に同一フォームで行っており、結果を公表している。しかし、その結果を授業改善にどのように反映させるのか具体的な方策が明確になっていない。また、各研究科では、これまでFD活動に組織的に取り組んできたとは言えない。しかし、2006年度(平成18年度)に大学院ファカルティ・デベロップメント部会」が設置され全学的検討が開始されたところなので、今後の活動に期待される。」との助言を全学的に受けている。

本学では2008年度に全教員が担当するすべての授業科目を対象とした授業評価アンケートを実施する。2008年度の授業評価のアンケート結果と2005年度および中間年の授業評価のアンケート結果とを比較、分析し、授業改善につなげるとともに、それを社会に説明していくことが強く求められている。

また、大学設置基準の改正により大学院に続いて大学においても2008年度からFDが義務化された。

※ 大学設置基準

第25条の3(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修を実施するものとする。